
スコアリングイントロダクション 2023

2023 年 CDP スコアリングのご紹介



CDP スコアリングイントロダクション 2023 - バージョン管理

バージョン	公開日	変更点の概要
1.0	2023年3月16日	第一版(英語)公開
1.1	2023年6月2日	<p>【自社固有の影響の状況】セクションの更新 回答例の提供</p> <p>【回答権限とリーダーシップの適格性】セクションの追加</p> <p>【Aリスト基準: 気候変動のみ】セクションの更新 フィードバックの仕組みの明確化、質問事項への言及を追加 (基準3のC1.2)</p>
1.2	2023年7月25日	<p>ネットゼロ目標の気候変動Aリスト基準の更新 および移行計画に関する気候変動Aリスト基準の明確化</p> <p>水セキュリティのAリスト基準の更新</p> <p>「CDPは、企業が水不足地域からの取水量が前年度より少ないか、同程度であることを実証していることを検証する権利を留保する」ことの明確化</p>
1.3	2024年2月6日	<p>【得点の配分】セクションの更新 2023年閾値の確定</p> <p>【リーダーシップの回答のレビュー】セクションの更新 2023年の評価リスクチェックのプロセスを明確化</p> <p>【付録II】の追加 2023年のスコアリング異議申立方針(スコア・アピール)を明確化</p>

目次

CDP スコアリング基準の概要	5
イントロダクション.....	5
参照いただきたい文書.....	5
データの質と正確性.....	5
スコアリングのアプローチ	6
スコアリングの原則.....	6
得点の配分.....	6
スコアリング基準の理解.....	7
回答ルート.....	8
セクター別質問に対するスコアリング.....	8
スコアリングカテゴリとウェイト.....	8
ポイントの配分.....	9
他の質問との照合.....	9
外部サイトへのリンク、添付文書、"Further Information" (任意追加情報) 欄への記載、他の質問への回答の参照.....	9
無回答の質問.....	10
質問内容に合致していない回答.....	10
説明の記述.....	10
自社固有の影響の状況.....	10
ケーススタディ.....	11
明確な根拠.....	12
無回答と回答遅延.....	12
情報開示レベルのスコアリング	13
認識レベルのスコアリング	13
マネジメントレベルのスコアリング	13
リーダーシップレベルのスコアリング	14
回答権限とリーダーシップの適格性.....	14
A リスト.....	14
A リスト基準: テーマ横断 (気候変動、水セキュリティ、フォレストの各プログラムに適用).....	15
A リスト基準: 気候変動のみ.....	15

A リスト基準:水セキュリティのみ	15
A リスト基準:フォレストのみ	16
リーダーシップ回答のレビュー	16
1. 回答の再確認.....	16
2. 評判リスクのチェック.....	16
3. スコアリング運営委員会	17
回答の公表.....	17
第三者検証.....	17
免責事項	17
スコアリングされる言語.....	18
簡易質問書のスコアリング	18
スコアリング基準に関するフィードバックとお問合せ先	18
付録 I - 利益相反に関するポリシー	18
回答スコアリングにおける利益相反に関するポリシー	18
スコアリング基準の作成.....	18
スコアリングプロセス.....	19
スコアに影響を与える資金提供と行為の制限.....	19
付録 II - スコアリング異議申立方針(スコア・アピール)	20

CDP スコアリング基準の概要

イントロダクション

CDP のミッションは、市場原理/市場関係者と協働し、企業に環境や天然資源への影響を開示して悪影響を低減するための行動を起こすことを促進することです。CDP のスコアリングはこのミッションに密接に関わっています。CDP はスコアリング基準を活用して、企業が CDP 気候変動、フォレスト、水セキュリティ質問書への回答を通して環境影響を測定し管理するための動機付けを行っています。CDP2023 質問書はセクター別のアプローチを採用しており、各質問書(気候変動、フォレスト、水セキュリティ)には、一般質問書と、影響の大きいセクター向けのセクター別質問書を設定しています。これらの質問書はそれぞれ異なるスコアリング基準が用いられます。CDP 質問書のスコアリングは、CDP によってトレーニングを受け、認定されたスコアリングパートナーによって実施されます。CDP 内部のスコアリングチームは、全てのスコアとデータの質のチェックを行い、各スコアリングパートナーと各サンプルの間でスコアリング基準が守られているか、品質のチェックを行っています。

2023 年の一般質問書とセクター別質問書の詳細なガイダンスは以下よりダウンロード可能です。

www.cdp.net/guidance/guidance-for-companies

スコアリング基準は、企業の環境ステewardシップに対する進捗を、CDP への回答内容から評価する手段です。この評価に基づいて最終的にスコアを算出します。セクター別のスコアリング基準では、回答企業が同業他社とのベンチマークや比較に活用できるように、セクターに特化したスコアを算出します。スコアリング基準では、回答内容の詳述の度合いや、環境問題への認識の度合い、環境問題の管理、環境ステewardシップに向けた進捗度合いを評価します。CDP は透明性を高めるために、全てのプログラム、全てのセクターのスコアリング基準をオンライン上で公開しており、ウェビナーやその他の機会にご説明を行っています。

参照いただきたい文書

CDP2023 質問書への回答を開始する前に、本書と、自社が回答するプログラムおよびセクターの CDP2023 スコアリング基準、CDP2023 回答ガイダンスの文書を一読いただくことを推奨しています。回答ガイダンスでは各質問を回答する際に回答に含めていただきたい要素を説明しており、その内容がスコアリング基準にも反映されています。回答データを比較可能なものとするためには、全ての回答企業に同様の手法で数値計算や回答の記述を行っていただく必要があります。回答ガイダンスではその方法を、他機関が発表している報告や評価のフレームワークにも触れながら説明しています。

データの質と正確性

CDP のスコアリングパートナーは、各企業が CDP に回答した回答内容に基づいてスコアリングを行います。CDP や CDP スコアリングパートナー、レポートライターが、個々の企業回答に記載された情報を検証することはありません。スコアリング基準に特別に記載がない限りは、CDP への回答以外から得られる情報を、各質問レベルのスコアリングで考慮することはありません¹。企業のウェブサイトやサステナビリティレポートなどの外部情報をスコアリングの際に考慮することはありません。回答企業は、回答内容を一般公表する、しないに関わらず、CDP 署名投資家プログラムで回答した内容は、全 CDP 署名投資家に共有されることについてご理解ください。そして、自社の現在の状況を可能な限り反映した完全で正確な情報を回答するようにお願いします。

¹ CDP 気候変動 2023 のスコアリング基準においては、科学的に基づく排出削減目標 (SBT) について、SBT イニシアチブの公式な認定を受けているかどうかの検証を行います。

スコアリングのアプローチ

スコアリングの原則

CDP のスコアリングは、CDP のミッションに即して、持続可能な経済のための CDP の原則と価値に焦点を当て、持続可能な経済を達成するようなビジネスケースを強調するものです。スコアリングは、ベストプラクティスを達成するためのロードマップを企業に提供し、毎年スコアリング基準を改訂することによって、企業の行動の変化を促進して環境パフォーマンスを向上させることができます。CDP の各プログラムの一般質問向けスコアリング基準は、全ての企業、全てのセクター、全ての地域に一定程度当てはまるような行動を奨励するように設計されています。セクター別のスコアリング基準は、全ての地域において、そのセクター内で活動している企業にのみ適用可能な行動を奨励します。スコアリング基準をよく理解している企業にとって、スコアは他の企業との比較のスナップショットを提供します。

得点の配分

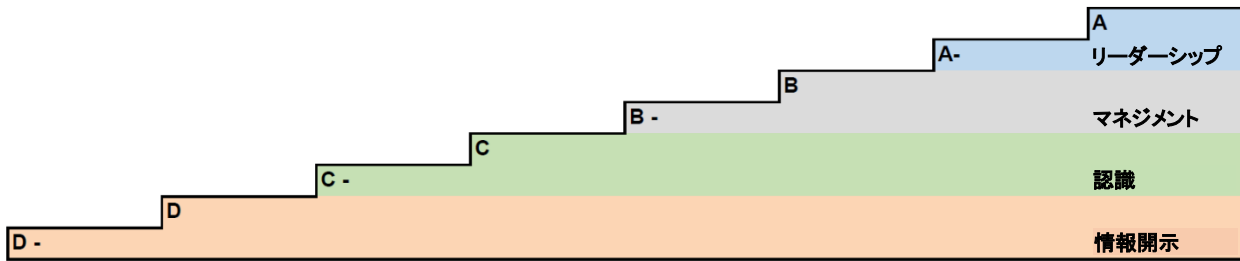
回答企業は、環境ステewardシップに向けた進捗を示す以下の 4 つのレベルで連続的に評価が行われ、どの段階にあるのかが示されます。

- 1) 情報開示
- 2) 認識
- 3) マネジメント
- 4) リーダーシップ

スコアリングの最終段階において、情報開示レベルと認識レベルで付与された得点の合計は、獲得しうる最大の点数で割ります。その数値を小数点第 2 位まで計算し、100 をかけたパーセントの値に変換したものが各レベルのスコアとなります。マネジメントレベルとリーダーシップレベルでは、スコアリングカテゴリーごとに獲得した得点の合計を各カテゴリーのウェイトによって重みづけして最終スコアを算出します。（「スコアリングカテゴリーとウェイト」の章を参照）

あるレベルの一定のスコアおよび/または一定数の指標をクリアしていることが、次のレベルで評価されるために必要です。スコアの基準点（閾値）が達成されない場合、回答企業は次のレベルのスコアを獲得できません。CDP は暫定的に閾値を設定し、スコアリング期間中に、スコアリングレベル間の回答の分布が回答全体の現在の進捗レベルを代表するものとなるよう、見直しが行われます。CDP は、企業の全体的な進捗状況を最もよく表すために、スコアリリースの前にこれらの閾値を調整する権利を留保します。

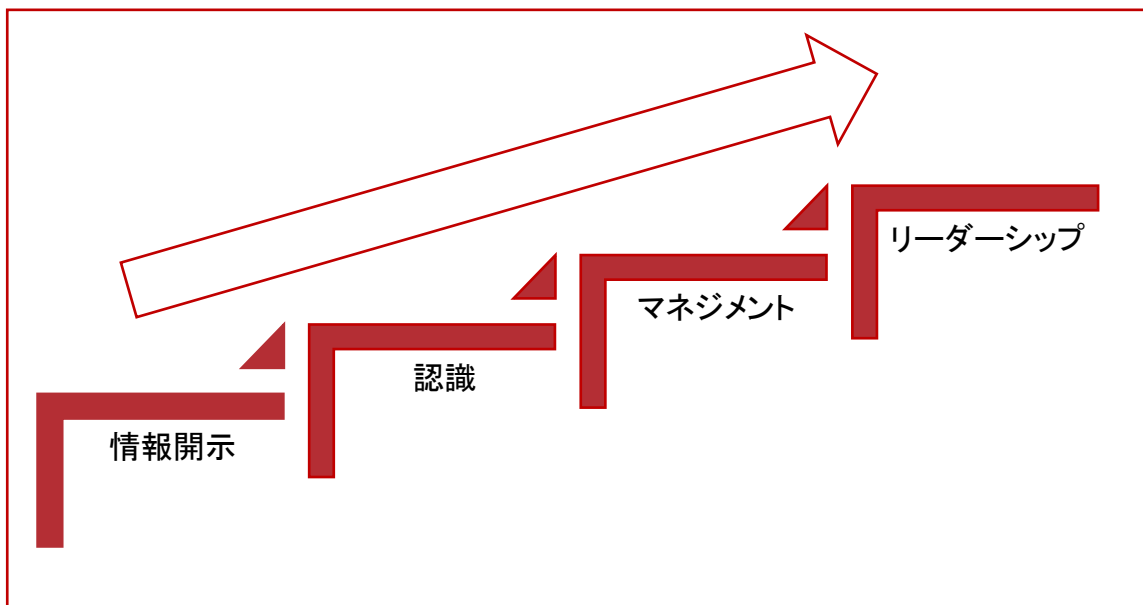
レベル	気候変動	水セキュリティ	フォレスト	スコア
情報開示	1-44%	1-44%	1-44%	D-
	45-79%	45-79%	45-79%	D
認識	1-44%	1-44%	1-44%	C-
	45-79%	45-79%	45-79%	C
マネジメント	1-44%	1-44%	1-44%	B-
	45-79%	45-79%	45-79%	B
リーダーシップ	1-69%	1-69%	1-69%	A-
	70-100%	70-100%	70-100%	A



結果は、環境スチュワードシップのどの分野で良好な成果にあるか、またどのような活動を改善目標とすべきかについて、回答企業に通知されます。

各質問には、複数のレベルのスコアリング基準が設定されていることもあります。各レベルのスコアリング基準は質問書全体に設定されています。評価対象の全ての質問で情報開示レベルのスコアリングが実施されますが、認識、マネジメント、リーダーシップレベルのスコアリングが実施されない質問もあります。

CDP スコアは、CDP への回答に記載された活動や立場にのみ基づいて評価されているため、必然的に限定的なものと言えます。したがって、回答に記載されていない企業の他の活動は考慮されず、そのような記載のない活動に環境的に良いものも悪いものもある可能性があることにご注意ください。



これらのレベルは、別表で示した A~D のスコアで示されます。

F = CDP が回答評価をするのに十分な情報を提供していない²

スコアリング基準の理解

スコアリング基準は、各質問について、4つの採点レベルのそれぞれの具体的な採点基準と、その質問の点数配分の詳細を示す表を提供します。採点基準では、その採点レベルでポイントを獲得するために、どのような条件を満たす必要があるのかを詳しく説明しています。ポイントの配分表は、各スコアリングレベルで達成可能な最大点数を示しています。スコアリング基準の文書をご覧くださいと、全般にわたって、“得点”(numerator)と“配点”(denominator)の欄が設定されています。“配点”欄は各質問で獲得可能

² CDP への回答要請を受けている全ての企業が回答している訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答、あるいは十分な情報を提供していない場合、スコアは F となります。ただし、F の場合でも、環境スチュワードシップが不十分であることを示している訳ではありません。

な最大の点数を示しています。質問によっては、回答を記入することにより、スコアラーの判断は必要なく、自動的にその最大の点数が付与される場合があります。このような場合、その最大の点数が、“得点”欄に記載されています。それ以外の場合には、“得点”欄は空欄となっており、スコアラーが判断して点数を決定します。

特定の回答ルートの配点の合計が、一連の質問の下に太字で表示されています。多くの場合、表形式での回答が求められる場合のように、複数のデータセットを回答する質問では、最も高評価となるデータセットが得点として記録されます。しかし、質問によっては、最初の行に回答したデータセットの点数が得点として採用される場合もあれば、全てのデータセットの評価を反映した点数が得点として採用される場合もあります。どのようなアプローチを採用しているかは、各質問レベルのスコアリング基準に記載があります。

回答ルート

選択形式の質問において、どの選択肢を選択するかで後に続く質問が異なり、配点の合計は異なってきます。多くの場合、“Yes”を選択した企業の方が、“No”を選択した企業よりも、より高い配点になります。しかし、このように異なる質問のルートがスコアに影響しないよう、スコアは正規化されてパーセントの値で表示されます。最終スコアは、獲得した得点の合計を回答すべき全ての質問の配点の合計で除して計算します。質問内容が自社に該当せず、より少ない質問数しか提示されない場合であっても、その企業は評価上不利になることはありません。

セクター別質問に対するスコアリング

影響の大きなセクターに属する企業には、一般セクター質問に加えて、もしくは一般セクター質問の代わりに、セクター別質問が設定されています。各セクターに関連するデータポイントに対応する形で、スコアリングの採点基準も変わります。

気候変動質問書では 16 のセクターに、水セキュリティ質問書では 7 つのセクターにセクター別質問が設定されています。フォレスト質問書にはセクター別質問がありませんが、石炭セクターと金属・鉱業セクターには独自の質問が設定されています。フォレスト質問書の石炭／金属・鉱業質問に回答する場合、スコアリングの対象とはなりません。

2022 年、気候変動質問書内に、金融サービスセクター向け質問が新たに導入されました。この質問モジュールでは、気候変動関連の質問内容に対応する形の、水とフォレストに関連する質問が設定されています。水セキュリティや森林減少の課題に関連して重大な影響を受ける企業に投融資、保険業務を行っている金融サービスセクター企業がこの質問の対象となります。水関連質問、フォレスト関連質問に回答いただいた場合、2023 年はフォレスト関連質問のみがスコアリング対象となります。ただし、気候変動関連質問のスコアリングとは独立して実施され、気候変動関連質問のスコアには影響しません。またフォレスト関連質問のスコアは公開されず、回答企業にのみ通知されます。

スコアリングカテゴリーとウェイト

2023 年のスコアリングカテゴリーは、2023 質問書の各モジュールのサブグループであり、各プログラムそれぞれで異なりますが、一つのプログラムにおいては全てのセクターで共通です。各プログラムの各セクターはそれぞれ異なる形で環境問題の影響を受け、それを管理しています。この特徴を反映するため、各プログラムで、セクター別スコアリングカテゴリーに異なるウェイトを設定しています。

ウェイトによる重みづけは、各スコアリングカテゴリーのマネジメントレベルとリーダーシップレベルに適用されます。各カテゴリーのウェイトは、最終スコアにおける相対的な重要性を反映しています。各セクター内のほとんどのスコアカテゴリーは、マネジメントレベルとリーダーシップレベルの両方に対して同じウェイトとなっています。

スコアリングカテゴリーごとのマネジメントレベルとリーダーシップレベルのウェイトを考慮した計算方法は次のとおりです。まず、カテゴリーの得点の合計／カテゴリーの配点の合計×100でパーセント表示のカテゴリーの得点率を計算します。それに、ウェイト(%)を掛けた値がカテゴリースコアとなります。全てのカテゴリースコアを合計した値が、最終的な各レベルのスコアとなります。

ポイントの配分

ポイントを付与する方法は質問ごとに異なり、回答企業は回答を準備する際にスコアリング基準を詳しくチェックすることをお勧めします。いくつかの質問では、与えられた各データポイントにつき、その質問で得点可能な最大ポイントまで、ポイントまたはポイントの一部が累積的に与えられます。その他の質問では、ポイントが付与されるためには、要求された全てのデータポイントを提供する必要があります。後者の場合、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータポイントを提供しなかったりすると、その質問の得点は0ポイントとなります。

表形式で複数の列の回答が求められるようなケースにおいては、いくつかのスコアリングの形式があります。すべての回答欄への記入がなされていないと得点とならない場合もありますが、最も高スコアとなる回答のみが得点に採用される場合もあります。また回答されたデータの数に比例して得点が与えられる場合もあります。この場合、回答行を追加して提供される情報量に比例してポイントを付与することによって、開示されたすべての行について完全な回答を行うことを促進します。スコアリングにおいては、当該質問の配点が、回答された行数で除され、追加された行ごとに回答された情報量に応じたポイントが付与されます。

スコアリング基準は有益なフィードバックを提供するように設計されており、回答企業は自社に最も関連し、自社の現在の状況を適切に反映し、入手可能な情報を回答しなければいけません。これにより、最終スコアが回答企業のパフォーマンスを反映し、コミットメントを進めるための有用なフィードバックを提供することができます。

他の質問との照合

スコアリング全体において、スコアリング基準は関連する他の質問のスコア／回答を参照することがあります。場合によっては、ある質問で点数を付与されていることが、別の質問の点数を獲得するための前提条件となります。また、ある質問で点数を付与されていることによって、別の質問の点数を獲得することができます。このように、他の質問を参照することは、企業の対応における一貫性を保証するためのスコアリングメカニズムです。どの質問と関連しているかは明確にされており、どのような閾値で評価されるかは各質問に固有の条件となっています。

外部サイトへのリンク、添付文書、"Further Information" (任意追加情報) 欄への記載、他の質問への回答の参照

スコアは、CDPのオンライン回答システム(ORS)に記載された内容に基づいて評価されます。特に明記されている場合を除き、回答欄に記載された情報のみが評価されます。

ORSには、“further information”(任意追加情報)欄が設けられており、また回答には文書を添付することもできます。ここで提供された情報は、投資家や回答要請を行っている顧客企業・団体(サプライチェーンメンバー)にも共有されますが、スコアリングには反映されません。ただし、質問で回答の根拠となる文書の添付を求めている場合には、該当する回答欄の正しい場所に該当文書を添付してください。もし文書がオンライン上でのみ入手できるものである場合には、その画面をPDF形式で印刷したものを添付してください。どのようなファイル形式の文書をORSに添付可能かは、回答ガイダンスを参照してください。

添付文書は、質問で特別に求められている場合のみ、内容を確認されます。(例:GHG排出量の第三者検証/保証書類)

同様に、スコアリングは、その質問の回答欄に記載された情報のみに基づいて行われます。他の質問で提供された回答への参照は、スコアリング基準で指定されている場合を除き考慮されません。

無回答の質問

無回答の質問は、その質問または一連の質問の最大の配点に対して0点の得点となります。特定の重要なデータポイントの場合、無回答の質問には、その質問で可能な最大得点よりも大きい配点に対して0点の得点となる場合もあります。これらの重要なデータポイントはスコアリング基準で強調されています。表形式の質問において、表内の空白のセルは、質問に回答しない、またはデータを開示しないことを選択したと解釈されます。

質問内容に合致していない回答

回答が明らかに質問内容に沿っていない場合は、その質問に対してポイントは付与されません。これには、明らかに質問に答えていない回答、ドロップダウンメニューからの選択肢と矛盾した記述、表形式の質問で間違ったセルに回答を入力している、というようなケースがあります。

説明の記述

質問書に示された特定の質問に答えるだけでなく、理由や状況についての記述を回答する必要があります。「これは当社の事業には関係ありません」というような記述は、なぜどのようにそのトピックが自社に関連性がないのかが説明されていないため、説明とはみなされません。この場合の良い回答例は、次のとおりです。「鉱業会社として、地方自治体の取水は〇〇の事業所にのみ関連しています。これらの取水量は、当社の採掘事業における直接の取水と比較して最小限であり、重要とは見なされないため報告しません。」

重複する説明(例えば質問間でコピー・ペーストされている)は、特定の質問の文脈において意味が通り、スコアリング基準で要求された詳述内容と一致している場合には得点が与えられます。一般に、企業は各質問に合わせて説明文を調整し、不必要にポイントを失うことを避けるためにテキストをコピーするときには注意を払う必要があります。

自社固有の影響の状況

スコアリング基準全体を通して、「自社固有の影響の状況(providing context specific to the company)」に対して得点が与えられています。自社の事業に特有の活動、プログラム、製品、サービス、方法論、事業所またはセクター規制に関連する説明です。この説明は、自社や自社が事業展開しているセクターに特化した内容で問題ありませんが、常に自社と回答する質問にどのように関連しているのかを明確にする

必要があります。自社固有の影響については、当面の課題が回答企業自身のビジネス状況の中で徹底的に検討されており、単に一般的な観点から評価されているのではないことを回答閲覧者に理解させることができます。

以下の例はすべて、リスクの説明という観点で示されていることに留意ください。

気候変動質問書

良い回答例	不十分な回答例
<p>当社の洋上風力発電所の位置は、その地域の風速に直接依存するため、当社の発電量に大きく影響します。</p> <p>当社の洋上風力発電所は、主に英国北東部に位置しており、気候変動による風速の変化が当社の事業に影響を与える可能性があります。</p> <p>2020年、A社の洋上風力発電所の加重平均風速は8.1m/sで、通常の会計年度(4月から翌年3月)を下回り、2019年に比べて12%減少しました。</p>	<p>気候変動は、風速の変化につながる可能性があります。</p> <p>ここで開示するリスクは、洋上風力発電の発電量は風速に直接応じて変動する風力発電所の風速に関連します。</p>

フォレスト質問書

良い回答例	不十分な回答例
<p>当社の総生産量(約12,000トン)の30%を占める日本の拠点では、地震、台風、豪雨などの自然災害による洪水リスクにさらされていることがリスク評価により明らかになりました。</p> <p>日本での事業は、大雨による洪水で生産が最大4週間停止するなど、中断されるリスクにさらされています。</p>	<p>リスク評価の結果、当社は地震、台風、豪雨などの自然災害による洪水リスクにさらされる複数の地域で事業を展開していることが判明しました。例えば、大雨により洪水が発生し、生産が停止するなど、当社の事業が中断されるリスクがあります。</p>

水セキュリティ質問書

良い回答例	不十分な回答例
<p>2°Cの気温上昇を想定したIPCC AR5シナリオのシミュレーション評価では当社は2050年までに3回の深刻な干ばつに遭遇し、4週間にわたる第2段階の水制限(20%の供給減)に直面する可能性があります。</p> <p>これにより、当社の生産量は25%減少する可能性があります。</p>	<p>2°Cの気温上昇を想定したIPCC AR5シナリオのシミュレーション評価では、当社では2050年までに干ばつの発生が増加し2050年までに干ばつが増加し、水の使用制限に直面する可能性があります、それが当社の事業に影響を与える可能性があります。</p>

ケーススタディ

いくつかの質問においては、回答を裏付けるための具体的なケーススタディを提供することでポイントが与えられます。ケーススタディとは、特定の状況や課題に対する過程、戦略、または意思決定の実施についての詳細な説明と定義されます。ケーススタディによって、以前に記述したプロセス、戦略、または意思決定が、質問書回答者の行動に反映されていることをデータ利用者に伝えることが可能です。

ケーススタディを記述する際には、以下に挙げる「Situation-Task-Action-Response (STAR)」アプローチに沿った記載を含める必要があります。

- 1) 状況 (Situation): 現状や背景はどのようなものか
- 2) 課題 (Task): 何をしなければならないのか／解決すべき課題は何か
- 3) 行動 (Action): 実施した一連の行動はどのようなものか
- 4) 結果 (Result): 行動した結果、最終的にどのような成果が得られたか

上記の STAR アプローチは、スコアリングの上で必ず要求するといったものではなく、企業が回答を作成する際の指針となるものであることをご留意ください。

気候変動質問書のスコアリング基準においては、ケーススタディの基準はより具体的に「実施した行動について、時間軸を伴った導入状況とその結果を説明すること」が求められています。

明確な根拠

いくつかの質問書内の設問では、「明確な根拠」を提供するとポイントが付与される場合があります。これは、回答企業によって実施された方法論、説明、決定および行動に対する論理的な根拠を提供する説明として定義されています。

無回答と回答遅延

CDP から回答要請を受けている全ての企業が回答を提出している訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答であったり、十分な情報を提供していない場合、スコアは F (failure to provide sufficient information to be evaluated) となります。締切を過ぎて回答した場合には、“not scored” と表示されます。

情報開示レベルのスコアリング

質問書の全質問は、情報開示の度合いを評価されます。一般に、各質問に割り当てられる点数は、要求されたデータ量とデータ利用者にとっての相対的な重要性の両方に依存します。データポイントは、情報開示レベルの1ポイントとほぼ同等ですが、情報の重要性が特に高い場合、1つの情報に複数のポイントが割り当てられます。記述式の回答の場合、要求されているデータポイントがいくつ提供されているかに応じてスコアリングされます。要求されているデータポイントは全て、2023 スコアリング基準で設定されています。

認識レベルのスコアリング

認識スコアは、環境問題が事業とどのように関連するかについての企業の評価の包括性を示しています。企業の評価には、事業活動が環境に与える影響、これらの活動が人や生態系に与える影響、環境が事業活動に与える影響が含まれます。これは、特定の企業が直面するビジネスリスクの大きさに影響します。

認識スコアは、企業が初歩的なスクリーニングや評価を超えて環境問題に対処するための行動を取ったことを示すものではありません。問題に対処するための行動は、次のレベル— マネジメントレベルのスコアリングで表わされます。

マネジメントレベルに進むには、回答企業は環境問題を幅広く評価し、どのように自社の事業に関連するかの基本的なレベルの認識があることを示すために、回答企業は得点可能な認識ポイントのうち、閾値を超えるスコアを獲得している必要があります。閾値は暫定的に設定されており、回答の分布が回答の母集団全体の現在の進捗レベルを表していることを確認し、スコアリング期間中に見直される場合があります。

マネジメントレベルのスコアリング

マネジメントポイントは、良好な環境管理に関連する行動の根拠を提供する回答に対して付与されます。より進んだ環境ステewardshipを示す回答にはより高いポイントが与えられます。マネジメントレベルでスコアカテゴリごとに算定されたポイントは、スコアカテゴリのウェイトに従って、最終的なマネジメントスコアを計算するために使用されます。

自社の事業が環境にどのように影響を与え、環境が自社の事業にどのように影響を与えるかを評価した後、企業は悪影響を減らすために取るべき行動を決定できます。リスクを低減し、影響の大きいサイトでの環境指標の測定を進め、リスク評価をより強固かつ包括的にし、環境方針を実施し、そして環境問題を事業戦略に統合するための努力をすることができます。マネジメントスコアは、これらすべての分野での行動を評価します。環境問題は特定の企業の事業運営に特有のものであるだけでなく、状況に特有のものである可能性があるため、特にフォレストや水セキュリティプログラムにおいて、特定の一連の行動をすべての企業にとって普遍的に正しいと推奨することはほとんど不可能と言えます。したがって、マネジメントレベルのスコアリングでは、行われた特定の行動の適切性または有効性を判断することよりも、企業によるプロセスおよび手順の開示に依存しています。気候変動は、地球規模で固有な環境問題であり、GHG 排出量の削減という形ですべての企業に関連性があり、どの企業にも同様に適用可能な緩和行動が必要

です。したがって、気候変動プログラムのマネジメントレベルのスコアリングでは、管理活動として上記のような活動に対して高評価を行っています。

リーダーシップレベルのスコアリング

リーダーシップレベルを獲得するためには、企業はスコアリング基準に記載されているリーダーシップポイントを獲得しなければなりません。これらの行動は、環境ステewardシップを推進するために CDP が協働している機関(例:CEO ウォーターマンドेट、CERES、WWF)によって策定されたベストプラクティスを表しており、多くのケースは、既に環境方針や環境活動において主導的な企業によって報告されている内容です。リーダーシップレベルでスコアカテゴリーごとに算定されたポイントは、スコアカテゴリーのウェイトに従って、最終的なリーダーシップスコアを計算するために使用されます。

気候変動プログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。これら企業の回答は、気候変動に関連するリスクと機会についての完全な理解を示し、そしてこれらのリスクを低減し機会を最大化するための戦略を策定し実行しています。そして、GHG 排出量を検証し、全社的な目標を達成するために排出量削減戦略を導入しています。

水セキュリティプログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。このような企業は水関連リスクを評価するしっかりとした手順を導入し、そのリスク影響を事業の成長戦略において評価しています。水管理が事業戦略に組み込まれており、明確な全社的な定量的な目標、定性的なゴールを設定しています。これらの企業は情報開示において、自社にとって重要な範囲を報告除外対象に含めていません。

フォレストプログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。このような企業は全ての関連する事業所、サプライチェーン、コモディティについて回答しており、重要な範囲を報告除外対象に含めていません。また包括的で完全なリスク評価を行っており、コミットメント達成に向けた活動を行っています。

回答の公開とリーダーシップの適格性

2023年にリーダーシップ・バンド(A/A-)のスコアを獲得するためには、企業は回答内容を公開する必要があります。2023年、回答内容を公開しない場合、獲得可能な最大スコアはB(マネジメントバンド)になります。これは、透明性のある情報開示ができる企業のみがリーダーとして認識されるというCDPの見解を反映しています。

Aリスト

気候変動や水問題、森林減少によるリスクを緩和するために、積極的かつ有効な活動を行っている企業を認めるために、CDPは、高いリーダーシップスコアを獲得した企業を、各プログラムのAリスト企業として認定しています。企業がAリストとして認定されるには、回答にいくつかの要件があり、回答提出後にCDPによって実施されるいくつかのチェックに合格する必要があります。

2023年CDPは、世界中で環境に対する懸念がますます高まる中、各テーマに新たなAリストチェックを導入し、早急かつ協調的な変革・変化の必要性を反映しています。これらのAリスト要件を満たすための具体的な内容については、「気候変動」、「水セキュリティ」、「フォレスト」の各スコアリング基準の「リーダーシップとAリスト基準」の項に、プログラムごとの詳しいガイダンスが掲載されています。

A リスト基準: テーマ共通 (気候変動、水セキュリティ、フォレストの各プログラムに適用)

1. 最低限必要なリーダーシップポイントを取得する(プログラムによって異なる)
2. 重大な除外事項がない(C6.4, C6.4a / W0.6a / F0.5a, F4.5a, F6.2)
3. 投資家要請に対し回答内容を公表して提出する
4. CDP スコアリングチームによる定性的なリーダーシップ質問項目チェックを通過する
5. CDP の評判リスクのチェックを通過する(下記参照)
6. CDP スコアリング運営委員会の承認を受ける(下記参照)
7. 金融サービス部門の企業は、以下の基準を満たす必要がある(C12.1, C-FS0.7):
 - a. 銀行業(銀行)または保険引受業(保険会社)の会社は、顧客とのエンゲージメントを報告する
 - b. アセットオーナーは、投資先とのエンゲージメントを報告する
 - c. 資産運用会社は、顧客および投資先とのエンゲージメントを報告する
8. 石油・ガス・石炭セクターの会社は、以下の基準を満たす必要がある:
 - a. C4.1a または C4.1b において、ベストプラクティスに完全に沿った短期排出量目標を報告、すなわち、(CDP ルートまたは SBTi ルートで)得点可能な最高点のリーダーシップポイントを獲得する
 - b. 回答者は、C-OG9.5a/C-CO9.5a に記されているように、いかなる新規の探鉱や既存の油田・天然ガス田・炭鉱の拡張に関与していない

A リスト基準: 気候変動のみ

1. スコープ 1、2 の 100%、およびスコープ 3 の少なくとも 1 つのカテゴリーで 70%の検証を受けている (C10.1a, C10.1b, C10.1c のすべてにおいて個別に検証が必要)
2. 報告年度のスコープ 1 および 2 の排出量を開示する(C6.1, C6.3)。
3. 取締役会レベルの監督のもと、1.5°C目標に沿った気候移行計画が公表されていて、かつ進捗状況を管理するために明確なフィードバックメカニズムを導入しているか、今後 2 年以内に導入する計画がある(C3.1, C1.1b, C1.2)
4. サプライヤーとのエンゲージメントを示す(C12.1) [金融サービスセクター質問書のスコアリング対象となっている企業は適用外]
5. SBTi(科学に基づく目標設定イニシアチブ)によって認定された、または以下の基準を満たす短期的な排出量目標を報告する(C4.1a, C4.1b):
 - a. 全社的なカバー率
 - b. スコープ 1 および 2 の基準年排出量の 95%をカバーする
 - c. 目標設定年から 5~10 年以内の目標年

2024 年以降、CDP は、実現可能なネット・ゼロ目標の有無を査定するための気候変動 A リスト基準を導入する予定である。

A リスト基準: 水セキュリティのみ

1. 質問 W1.2 において、貴社の拠点/施設/事業所の 75%以上が、以下の事柄について定期的に監視されていることを示し、包括的な水管理機能を実証する:
 - a. 取水量 – 総量
 - b. 排出量 – 総量
 - c. 排水の水質 – 標準的な排水パラメータによる
 - d. すべての労働者に対する、十分に機能し、安全に管理された WASH サービスの提供
2. 水ストレスのある地域からの取水量が、前年度と比較して少ない、または安定していることを報告する(水不足地域からの取水量がある回答者のみに適用) (W1.2d)

CDP は、企業が水不足地域からの取水量が前報告年より少ないか、同程度であることを実証しているかどうかを査定する権利を留保していることに留意してください。
追加情報については、報告ガイダンスを参照してください。

3. 水に関する問題について、サプライチェーンとの協働を報告する(W1.5)

A リスト基準: フォレストのみ

1. 全てのコモディティ生産量/消費量と全ての森林リスク国の原産地を報告する
2. 全ての操業とサプライチェーンに対し包括的かつ徹底的なリスク評価が実施されたことを実証する (F2.1a)
3. 森林減少および森林劣化に関連するコミットメントに向けた行動を実証する (F1.3, F1.7, F4.5, F4.5a, F4.6, F4.6b, F6.1, F6.1a, F6.2, F6.2a, F6.3, F6.4, F6.4a, F6.8, F6.10/F6.11)

リーダーシップ回答のレビュー

A リスト企業は CDP のレポートや報告会等のイベントにおいて世界的に認められるというベネフィットがあります。この認定を保証するために、A リスト企業決定の際には、正式なしっかりしたプロセスをとっています。スコアリングパートナーから CDP にスコアが提出されると、A リストレビューのプロセスが開始されます。A リストに認定されるためには、以下の 3 つのステップをクリアする必要があります。1 つでもクリアできない要件があった場合には、スコアは A- となります。A- の企業は、良いパフォーマンスを行っていますが、A リスト要件の全てを満たしていないため A リストには含まれません。

3 つのステップは以下のとおりです。

1. CDP スコアリングチームによる回答の再確認
2. 評判リスクのチェック
3. CDP スコアリング運営委員会の承認

1. 回答の再確認

CDP はリーダーシップレベル(A または A-)にある全ての企業の回答とスコア結果をレビューし、リーダーシップと判断するために、回答内容が十分に詳述され、十分に高い質のものであるかを確認します。

再確認するポイントは以下のとおりです。

- 1) 回答が全般的に明確であり、曖昧な意味合いのものが無い
- 2) 関連する情報を網羅し、求められている内容を回答している
- 3) 各質問に対して明確に適切なレベルの詳述を行っており、データ利用者にとって有益な情報を提供している

回答に重要な情報が欠けている場合にはリーダーシップから除外されます。企業は、報告された除外項目がその環境影響に基づいて重要でないかどうかを示す情報を提供する必要があります。その例としては、全世界的に事業を行っている企業が 1 カ国の事業に基づいた回答しか行っていない場合や、大きな環境影響があり、事業にとって重要であると考えられる事業分野の情報を開示していない場合などです。直近の合併や買収など、適切なビジネス上の理由により、回答できない情報がある場合には、問題とはみなされません。

2. 評判リスクのチェック

CDP は、回答が審査され、A リスト必須基準にすべて通過した時点で、A リストの対象となる回答企業について、CDP の回答に含まれるもの、または一般に入手可能なものの中に、A リストに掲載する企業の適性の疑念を生じさせるものがないことを確認するために、評判リスクのチェックを実施します。

2023年、CDPは独立した第三者機関であるECOFACTを採用し、報告年度の期間にわたって、Aリストに適切な企業の評判リスクを調査しました。評判リスクのチェックは、CDPが定めたスコアリング原則に基づいて行われます。これらの原則は、企業のESG評判リスクを総合的に評価するため、重大な社会問題やガバナンス問題だけでなく、環境領域におけるリスクも考慮します。

ECOFACTは、データプロバイダであるRepRiskから提供される環境、社会、ガバナンスに関する報告年度に関連するデータを検討します。RepRiskは、批判を捉え、企業およびプロジェクトのESGリスクに対するエクスポージャーを定量化する定量的手法を提供しています。RepRiskは28のESG問題と36のトピックタグにおいて、15の言語で80,000以上のソースのデータをスクリーニングします。

3. スコアリング運営委員会

スコアリング運営委員会は、独立した第三者機関が行ったすべての推奨事項がCDPのスコアリング原則に沿ったものであることを確認するため、品質保証チェックを実施します。

Aリストから漏れた企業は、個別に通知されます。この決定は外部に公開されることはありません。

第三者検証

気候変動プログラムにおいて、企業がAリストに選定されるためには、CDPが認定した検証基準のもとでスコープ1、2の100%、およびスコープ3の最低1つのカテゴリーで70%の第三者検証を受けている必要があります。認定された検証基準の一覧は、CDPウェブサイトからご覧いただけます。

(<https://www.cdp.net/en-US/Respond/Pages/verification-standards.aspx>)このリストに含まれていない基準に関しては、verification@cdp.netまで、基準名と、可能であれば関連するウェブサイトのリンクやコンタクト先をご連絡ください。

免責事項

CDPスコアは、CDP回答に記載されている活動と内容に基づいています。そのため、CDPの回答に記載されていない行動は考慮されず、データ利用者はこれらが環境管理の観点からプラスまたはマイナスである可能性があることに留意するよう求められます。このスコアは、企業の持続可能性や「グリーン」のレベルを包括的に示すものではなく、環境フットプリントに関する特定の指標ではありません。しかし、報告年度中の環境関連の問題による影響を評価し管理するために企業が行っている行動のレベルを示す一つの指標となります。

CDP2023スコアリング基準は現在も発展段階にあります。スコアリング基準は一般に公開され、回答企業がどのように得点を与えられるのかを示しています。最新のリスク管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、スコア結果に基づき、CDPはスコアリング期間前や期間中を通して、基準や質問のウェイトを変更する権利を留保します。

スコアリングされる言語

2023年、回答が、英語、日本語、中国語、スペイン語、ポルトガル語で提出された場合、他のすべてのスコアリング基準が満たされていればスコアリング対象となります。これらの言語で提出されない回答は、採点の対象にはなりません。

簡易版質問書のスコアリング

署名機関から回答要請を受けて開示する場合、簡易版質問書に回答する資格がなく、スコアリングも実施されません。

顧客企業からのみ回答要請を受けて簡易版質問書に回答した企業、バンクプログラムメンバー、RE100、およびまたは NZAM のみから回答要請を受け、年間売上が 2 億 5000 万ユーロ/米ドル以下の場合、簡易版質問書向けのスコアリング基準に基づいてスコアリングされます。ただし完全版の質問書に回答した企業との比較ができないため、A リストには選定されません。

スコアリング基準に関するフィードバックとお問合せ先

スコアのフィードバックを受けたい場合、およびスコアリング基準に関する質問やご提案がある場合、並びに一般的な質問は以下のヘルプセンターから問合せください。

<https://help.cdp.net/en-US/>（英語）、<https://help.cdp.net/ja-JP/>（日本語）

回答プロセスにおける特別なサポートをご希望の場合

reporterservices@cdp.net（英語）、reporterservices.japan@cdp.net（日本語）

付録 I - 利益相反に関するポリシー

回答スコアリングにおける利益相反に関するポリシー

2023年改訂

高品質の情報を提供する、独立した公平なプロバイダーとしてのCDPの評判を維持することが最も重要です。したがって、CDPは、本ポリシーを採用し、質問書に回答した企業に対して当機関が与えるスコアの正確性に影響を及ぼす可能性がある利益相反のリスクを最小限に抑えます。

スコアリング基準の作成

1. CDPスコアリングチームは、CDPの使命を推進し、環境問題に関する科学的知識を考慮に入れ、回答企業を公平に扱うような方法でCDPスコアリング基準を作成する責任があります。スコアリングチームはこれらの要素のバランスを取り、それらについて独立した決定を下さなければならず、利益相反の可能性を最小限に抑えるために、チームメンバーの誰もが企業との継続的な関係に責任を負いません。

スコアリングプロセス

2. CDPスコアリングチームは、スコアリングプロセスの実施、スコアリングパートナーのトレーニング（下記の第4項で定義）、および発表前のスコアの検証を監督します。スコアリングチームは他のCDPスタッフに協力を要請することができます（例えば、特定の基準を満たすかどうかをチェックするために添付ファイルを翻訳するなど）。しかし、そのようなスタッフは未発表の回答またはスコアへのアクセスを許可されておらず、全てのスタッフは常に下記の第7項の禁止の対象となります。
3. 回答企業から提出された回答は、企業によって、またはCDPスタッフの指導によってのみ修正が可能です。
4. CDPに代わってスコアリングを行う機関（スコアリングパートナー）は、CDPによって認められ、CDPのトレーニングプログラムを完了し、CDPスコアリング基準を一貫して適用させるための内部のクオリティアシュアランスプロセスを実施し、スコア公開前の最終チェックのためにCDPにスコアを提出しなければいけません。
5. スコアリングパートナーは、回答企業が自社の創業者、クライアント、競合他社に関係なく、全ての回答企業を平等に扱わなければいけません。従って、
 - a. スコアリング開始前に、スコアリングパートナーはCDPIに、クライアントや創業者、競合他社が回答企業のサンプルに含まれているか、また回答準備やレスポンスチェックサービスを提供した企業が含まれているかをCDPに知らせなければいけません。
 - b. スコアリングパートナーが回答企業の回答準備やレスポンスチェックサービスを提供していた場合、他のスコアリングパートナーがスコアリングを行います。
 - c. 客観性に影響を与える可能性があるその他の分野でスコアリングパートナーが回答企業と協力している場合、CDPはそのような回答の全てまたは一部のチェックを行います。
 - d. スコアリングパートナーの公平性に懸念がある場合、CDPIはそのようなスコアリングパートナーのスコアに追加のチェックを適用するか、影響を受ける企業が別のスコアリングパートナーによってスコアリングされるように調整します。
 - e. スコアリングパートナーがスコアリングのアプローチを平等に適用していないことをCDPが発見した場合、CDPIは直ちにそのスコアリングパートナーとの関係を解除し、影響を受けたスコアを確認および修正します。

スコアに影響を与える資金提供と行為の制限

6. CDPもスコアリングパートナーも、スコアの決定に影響を与えることが目的の資金提供は受け付けません。これは、助成金、スポンサーシップ、サービスの販売、またはその他の収入にも同様に当てはまります。
7. 回答を修正したり、スコアリング基準やスコア結果に影響を与えたり、あるいは第三者が個人的な利益を得るために支援したりするCDPスタッフやトラスティメンバーの行為は、重大な違法行為とみなされます。

付録 II - スコアリング異議申立方針(スコア・アピール)

1. 回答企業が以下の根拠を有する、または根拠が存在すると思われる場合:

- a. 回答がスコアリング基準に従って正しく評価されていない。
- b. 回答中に技術的な問題が発生し、CDPの過失であり、回答が正しくスコアリングされなかった。
- c. CDPの評判リスク処理の一環として、誤って格下げされた。

スコアアピールフォームを受け取るためには、地域のCDPコンタクトにこの問題を提起する必要があります。地域のCDPコンタクトがない場合は、[ヘルプセンター](#)を通じて連絡してください。

2. 回答企業は、スコア・アピール・フォームに記載されている指示内容に従う必要があります。

3. 記入済みのフォームは、2024年3月19日 23:59 PDT(米国太平洋標準時間)までに各地域のCDPコンタクトを通じてフォームの提出が必須です。上記の締切以降に提出されたフォームは、如何なる事由も考慮されません。

4. CDPスコアリングチームは、スコアリング基準に従って、可能な限り、早急に貴社のアピールを検討します。CDPスコアリングチームは、スコアリングに従って、可能な限り迅速にスコア・アピールを審査することを目指しますが、受理される不服申し立ての数が不明確であるため、審査時間を保証することはできません。

CDPスコアリングチームの回答は、スコア・アピール・フォームを通じて行われ、そのフォームは各地域のCDPコンタクトから貴社に返送されます。

5. スコア・アピールの結果、対象となった回答が再スコアリングされ、新たなスコアが与えられた場合、新たなスコアは、審査後、可能な限り迅速にCDPシステムおよびCDPウェブサイト上で更新されます。

6. 回答部分の再スコアリングが適切かどうかについてのCDPの最終決定権利を留保します。

以上